

○水生生物モニタリング調査結果一覧（太田川F）

＜太田川F　水質底質採取項目＞

項目	一般分析項目		放射性物質分析項目			
調査地点	水質	底質	水質（Cs）	水質（Sr）	底質（Cs）	底質（Sr）
F－1	○	○	○	○	○	○

＜太田川F　現場測定項目＞

項目	調査緯度・経度		調査日時			水質	底質				その他	
調査地点	緯度	経度	日	時刻（水）	時刻（泥）	水温（℃）	泥温（℃）	性状	色相	混入物	全水深（m）	透視度（cm）
F－1	37.5975°	140.9252°	R5.6.9	09:17	09:36	16.5	16.7	砂混シルト	5Y5/2	なし	0.33	40

＜太田川F　一般分析項目・放射性物質分析項目　水質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	BOD	COD	DO	電気伝導率	塩分	TOC	SS	濁度	Cs-134	Cs-137	Sr-90
調査地点	緯度	経度	日	時刻		（mg/L）	（mg/L）	（mg/L）	（mS/m）		（mg/L）	（mg/L）	（度）	（Bq/L）	（Bq/L）	（Bq/L）
F－1	37.5975°	140.9252°	R5.6.9	09:17	7.3	1.3	5.4	9.6	6.7	0.04	2.1	9	5.8	0.0024	0.12	0.0028

注）N.D.は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜太田川F　一般分析項目・放射性物質分析項目　底質＞

項目	調査緯度・経度		調査日時		pH	酸化還元電位 E _{N.H.E} （mV）	含水率 （％）	IL （％）	TOC （mg/g-dry）	土粒子の密度 （g/cm ³ ）	粒度組成								Cs-134 （Bq/kg-dry）	Cs-137 （Bq/kg-dry）	Sr-90 （Bq/kg-dry）
	緯度	経度	日	時刻							礫 （2～75mm） （％）	粗砂 （0.85～2mm） （％）	中砂 （0.25～0.85mm） （％）	細砂 （0.075～0.25mm） （％）	シルト （0.005～0.075mm） （％）	粘土 （0.005mm未満） （％）	中央粒径 （mm）	最大粒径 （mm）			
F－1	37.5975°	140.9252°	R5.6.9	09:36	7.1	478	31.3	5.4	4.9	2.660	1.1	2.1	14.9	35.2	31.9	14.8	0.088	4.8	11	490	1.4

注）N.D.は、not detected（検出下限値未満）を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

＜太田川F 分析項目 水生生物＞

地点	採取場所	調査緯度・経度		採取日	門	綱	目	科	学名	和名	個体数	採取重量 (kg-wet)	特記事項			放射性セシウム(Bq/kg-wet)			Sr-90 (Bq/kg-wet)
		緯度	経度										成長段階	消化管内容物	測定部位	計	Cs-134	Cs-137	
F-1	太田川本流	37.5975°	140.9252°	R5.6.7	藻類・植物	—	—	—	—	河床付着物（藻類を含む）	—	0.059	—	—	—	100	N. D. (3.9)	100	—
					節足動物	昆虫	トビケラ	ヒゲナガトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	ヒゲナガカワトビケラ	88	0.0071	幼虫	—	—	69	N. D. (11)	69	—
					節足動物	昆虫	トンボ	エゾトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i>	コヤマトンボ	30	0.013	幼虫（ヤゴ）	—	—	39	N. D. (8.5)	39	—
					節足動物	昆虫	トンボ	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	オニヤンマ									
					節足動物	昆虫	トンボ	ササエトンボ	<i>Stylogomphus suzukii</i>	オジロサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	ササエトンボ	<i>Sieboldius albardae</i>	コオニヤンマ									
					節足動物	昆虫	トンボ	ササエトンボ	<i>Davidius</i> sp.	ダビドサナエ属									
					節足動物	昆虫	トンボ	ササエトンボ	<i>Asiagomphus melaenops</i>	ヤマサナエ									
					節足動物	昆虫	トンボ	トンボ	<i>Sympetrum</i> sp.	アカネ属									
					節足動物	昆虫	トンボ	ヤンマ	<i>Boyeria maclachlani</i>	コシボソヤンマ									
					節足動物	昆虫	ヘビトンボ	ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	ヘビトンボ	32	0.011	幼虫	—	—	15	N. D. (3.0)	15	—
					節足動物	軟甲	エビ	テナガエビ	<i>Palaemon paucidens</i>	スジエビ	141	0.40	成体	—	—	59.2	1.2	58	—
					節足動物	軟甲	エビ	ヌマエビ	<i>Paratya improvisa</i>	ヌカエビ	242	0.094	未成年体/成体	—	—	49	N. D. (2.4)	49	—
					節足動物	軟甲	エビ	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>	モクズガニ	1	0.010	未成年体	—	—	91	N. D. (17)	91	—
					脊椎動物	硬骨魚	ウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	ニホンウナギ	3	1.3	成魚	空胃	内臓除去	72	N. D. (1.5)	72	0.45
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	ウグイ	7	0.31	未成年魚/成魚	—	—	142.8	2.8	140	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Opsariichthys platypus</i>	オイカワ	18	0.22	未成年魚/成魚	—	—	80	N. D. (1.8)	80	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Candidia temminckii</i>	カワムツ	44	0.17	未成年魚/成魚	—	—	51	N. D. (2.0)	51	—
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	1	3.6	成魚	不明消化物	内臓除去	193.3	3.3	190	2.4
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	ドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>	シマドジョウ	16	0.034	未成年魚/成魚	—	—	59	N. D. (7.0)	59	—
					脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	1	0.013	未成年魚	—	—	79	N. D. (20)	79	—
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>	オオヨシノボリ	7	0.035	成魚	—	—	130	N. D. (5.7)	130	—
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ	<i>Rhinogobius nagoyae</i>	シマヨシノボリ									
					脊椎動物	硬骨魚	スズキ	ハセ	<i>Tridentiger brevispinis</i>	ヌマチチブ	1	0.032	成魚	—	—	54	N. D. (6.1)	54	—
					脊椎動物	頭甲	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	<i>Lethenteron reissneri</i>	スナヤツメ	6	0.012	アノミーテス幼生	—	—	22	N. D. (3.4)	22	—
					脊椎動物	両生	無尾	—	—	カエル類	53	0.046	幼生（オタマシヤツシ）	—	—	69	N. D. (6.0)	69	—
					脊椎動物	両生	無尾	アメリカアカエル	<i>Lithobates catesbeianus</i>	ウシガエル	12	0.20	幼生（オタマシヤツシ）	—	—	102.4	2.4	100	—
					粗粒状有機物	—	—	—	—	水底落葉等	—	0.25	—	—	—	152.7	2.7	150	—
F-5	太田川本流	37.6022°	140.9868°	R5.6.7	脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	1	3.1	成魚	不明消化物	内臓除去	30	N. D. (1.2)	30	1.9
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	1	3.5	成魚	不明消化物	内臓除去	30	N. D. (1.2)	30	1.9
					脊椎動物	硬骨魚	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	コイ	1	3.6	成魚	不明消化物	内臓除去	36	N. D. (1.4)	36	1.3
					脊椎動物	硬骨魚	サケ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	アユ	295	1.8	未成年魚	—	—	42.3	1.3	41	0.27

※1：生物は、当該調査水域またはその周辺で採取したものである。

※2：水生生物を複数採取できた場合は、これらを混合して試料とした。

※3：複数種の混合試料においては、最も多く採取できた優占種を、和名に下線で示した。

※4：生物試料は、全個体を測定することを原則とするが、消化器系に残留した未消化の餌料や底泥等は測定しないよう、内臓（胃、腸）の除去が可能な試料については、除去して測定した。

※5：プランクトン（浮遊藻類）とは、湖沼水または海水を40μmのプランクトンネットで漉した残留物を指す。

※6：河床付着物（藻類を含む）とは、石に付着した藻類をブラシ等で掻き落としたものであるが、無機態のシルト・粘土等の微細粒子が含まれることがある。

※7：N. D. は、not detected(検出下限値未満)を示し、括弧内の数字は検出下限値を示す。

※8：放射性物質濃度の数値には計数誤差等が含まれているが、本報においては記載していない。